

各地の反核医師の会の活動紹介

馬群
核戦争防止群馬県医師の会が
活動再開

劣化ウラン弾の問題で森住卓氏の講演会を開催しよう、と考えていたが、ここ何年か集まりも無かったため動き出すの時間がかかっていました。今年度中には、行動しようとして話人は考えていたのですが、フットワークの良い青年達が、一月十七日(土)に講演会を開催するの、協力してくれないか?と、思いも寄らない方向から話しが飛び込みました。講演料だけでも十五万円かかるのに準備金は全くないという無鉄砲さですが、これをバックアップしようという事で話人の合議で、資金援助と会員への参加呼びかけを決定。会の残金から援助金拠出と百七十名会員への郵送を行いました。当初三百名を予定していた講演会には、医師の姿もたくさん見え立ち見も含め四百名の参加者でした。森住さんは、たかさんの劣化ウラン弾と関係する写真を呈示してくれアメリカの犯罪的な行動を糾弾していました。しかし、私は、これらの健

東京
東京反核医師の会が総会



浅井基文明治学院大学教授による「国際貢献と日本国憲法」の講演(東京反核医師の会定期総会)

害の因果関係を証明して行く、という事になりました。もちろん、群馬県の医師だけで出来る仕事ではないので保団連・全国の反核医師の会・専門家と連携してゆこうと決意。さっそく、その月の保団連非核平和民主主義部の会合で論議してもらいました。「核戦争防止群馬県医師の会」は、長く休んでいたのでも少し動いただけでも思切れますが、この問題を中心に動き出すことになりました。(深沢尚伊)

掲示板

核戦争を防止し平和を求め茨城医療人の会(仮称)設立総会入会のご案内

とき: 2004年4月18日(日) 14:00~17:00
ところ: ワークヒル土浦(茨城県土浦市木田余東台4丁目1-1 TEL.029-826-2622)

【問い合わせ先】: 0298-23-7930 (事務局: 茨城県保険医協会気付)

折り鶴コンサート(主催: 核戦争を防止する石川医師の会、石川県保険医協会)

とき: 5月23日(日) 開場13:30 開演14:00
ところ: 石川県文教会館ホール

出演: シンガーソングライター・梅原司平
入場料は大人2,000円、中高生1,000円。その一部は劣化ウラン弾の被害にあったイラクの子どもたちへの医療支援に寄付します。

【問い合わせ先】: 石川県保険医協会 (TEL.076-222-5373) まで

平和講演会(核戦争防止和歌山県医師の会)

アレン・ネルソンさんの平和講演会
テーマ: 実際の戦争とは
とき: 5月29日(土) 14:00~16:00
ところ: プラザホープ2F 多目的室

ダグラス・ラミスさんの平和講演会(第17回核戦争防止和歌山県医師の会総会記念講演)

テーマ: アメリカという国の考え方
とき: 7月3日(土) 15:00~17:00
ところ: 和歌山市勤労者総合センター 6F
【問い合わせ先】: 医師の会事務局 (073-436-3766 柏木) まで

未来に大きな不安を感じながら二〇〇四年の春を迎えている。人は誰でも、健康に生きたい、希望をもって働きたい、健康やかに平和に暮らしたい、と思い社会に存在している。「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求め、医師・医学者のつどい」の医師たちは、社会的良心をもち誠実に医療活動を行い、社会の使命を發揮して核兵器廃絶の運動を被爆者に連帯し進めてきた。平和を求める国民の願いは、政権与党によって次から次に踏みにじられていた。昨年三月、イラクが大量破壊兵器を所有し、世界平和にとって危機、という「大義」のもと、国連の諸決

議を無視しアメリカはイラクに戦争を仕掛けた。小泉政権は、この戦争に参加するためにつくられた有事関連法のひとつとして改正自衛隊法を成立させた。「有事」の際、都道府県知事が防衛長官

防衛長官は、自衛隊にイラクへの派兵命令を出した。大義のない戦争に参加し、劣化ウランの汚染にまみれた地で自衛隊を占領軍として加わらせる暴挙は、私たちが国民にとって、戦後最大の危機で

あるばかりか、テロと報復の連鎖をさらに助長する意味においても世界の平和にとってもきわめて危険な状況を作り出している。今、国際世論は「予防戦争の論理は証拠もなく言い掛かりだけで戦争を始められる危険で

非理性的なもので、民主主義に値しない」といっている。このように、プッシュ政権のユニテラリズムは孤立を深めているのである。91年に湾岸戦争で、アメリカは史上初めて劣化ウラン弾を使用

ばかりか、核兵器の先制使用も辞さないと言明している。このような危機に直面し、ついに「結果を私たちが受けたい」に集結する私たちが、無力感に浸るわけにはいかない。国内外で平和を求め、核廃絶を願う人々と連帯を深め活動強化しよう。

「被爆者問題」をなんらかの形でとりあげるよう要請している。積極的な参加を組織しよう。

核をめぐり情勢は厳しい状況である。十六年に及び、つどい」の代表世話人の任にあられた方、昭三先生の新年のメッセージはプレイトの言葉に託されている。堅固なものには堅固ではない。変わらざるものはない。うちのめされるままにまかせず立ち上げられ、途方に暮れず、つどい」(代表世話人 児嶋徹)

第14回反核医師・医学者の集いを開催

2日間全日程で160名が参加

21世紀沖縄から核・基地・戦争を問うニュース
第26号(復刊3号)
2004年3月20日

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

「核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会」(東京反核医師の会)が二月十一日(土)十五時から二〇〇四年総会、十六時から記念講演を新宿農協会館にて開催しました。医師・医学者をはじめ三十二名が参加しました。

総会の特別決議では「イラクへの自衛隊派兵の撤回を求め、核兵器廃絶・憲法擁護の働きかけ」を決定し、総会後、浅井基文明治学院大学教授による「国際貢献と日本国憲法」の講演(東京反核医師の会定期総会)を開催した。

「核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会」(東京反核医師の会)が二月十一日(土)十五時から二〇〇四年総会、十六時から記念講演を新宿農協会館にて開催しました。医師・医学者をはじめ三十二名が参加しました。

「核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会」(東京反核医師の会)が二月十一日(土)十五時から二〇〇四年総会、十六時から記念講演を新宿農協会館にて開催しました。医師・医学者をはじめ三十二名が参加しました。

「核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会」(東京反核医師の会)が二月十一日(土)十五時から二〇〇四年総会、十六時から記念講演を新宿農協会館にて開催しました。医師・医学者をはじめ三十二名が参加しました。

「核兵器廃絶・核戦争阻止 東京医師・歯科医師・医学者の会」(東京反核医師の会)が二月十一日(土)十五時から二〇〇四年総会、十六時から記念講演を新宿農協会館にて開催しました。医師・医学者をはじめ三十二名が参加しました。

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/

核戦争に反対し核兵器廃絶を求め医師・医学者のつどい事務局
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話03(3375)6121 FAX 03(3375)1862
e-mail:hankaku@doc-net.or.jp
http://www1.doc-net.or.jp/~no_nukes/



医療人のための平和テキスト「核のない世界」を出版
昨年11月に「核戦争に反対し核兵器の廃絶を求め医師・医学者のつどい」編で、発行された。本書は、医学生や若手医師に何故医師が核兵器廃絶に取り組んでいるのか、それが医師としての良心であり、責務であることを学んで欲しいということから企画された。さらに、医師の立場からの核兵器廃絶運動を系統的に記述した有用な資料でもある。学習会などで積極的にご活用ください。
価格1,600円(10冊以上の場合1,200円 梱包送料別)
申込方法
氏名、送り先住所、電話番号、冊数を明記し、下記までご連絡ください。
「つどい」事務局: e-mail:hankaku@doc-net.or.jp, もしくはファクス: 03-3375-1862
教宣文化社: e-mail:joukan@kyousenbunka.co.jp

第15回反核医師医学者の集いin札幌

現地実行委員会が結成

第一分科会は、「核軍事基地沖繩と有事法制」をテーマとし、新垣勉弁護士が、「有事法制について」、大城保英・沖縄県平和委員会事務局局長が、「核軍事基地沖繩と有事法制」、宮城康博・名護市議が、「名護への新基地をめぐって」と題しての問題提起と討論がなされた。この分科会の参加者数は三十二名。
第三分科会は、「平和教育の実践」というテーマで、堺英二郎・琉球大助教授が、「核の科学の教育」、石原昌家・冲国大教授が、「沖縄戦の体験と平和教育」、また西銘圭蔵・沖縄県反核医師の会世話人が、「医療と平和はどう結びつか」と題しての問題提起と討論がなされた。この分科会の参加者数は四十四名。
分科会終了後、閉会総会がおこなわれ、アピール「唯一の被爆国の医師として命と平和を守るために闘おう」と、特別決議「原爆症認定集団訴訟の勝利をめざして医療人の社会的良心を發揮し、全面的に支援しよう」の二つのアピールを採択し、幕を閉じた。
その後、オプショナルツアーが行なわれ、キャノンセンター(車窓)嘉数高台公園(普天間基地展望)、安保の見える丘(嘉手納基地) 道の駅「かてな」のコースのバスツアーに、三十七名が参加した。



民・長崎原爆被災協事務局局長が「被爆者はなぜ立ち上ったか」山下兼

第15回「反核医師・医学者の集いin札幌」 現地実行委員会が結成

第一回実行委員会を開催



講演する児島 徹氏

次回開催地・北海道から 核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会会長 福地 保馬

二〇〇四年の「第十五回反核医師のつどい」が北海道で開催されることになりました。北海道には、いま、核と戦争をめぐる多くの問題がホットに存在しています。いまや、北海道は、イラク派兵の「現地」です。空自・陸自の先遣隊、航空自衛隊の本隊につき、陸上自衛隊の本隊がイラクに向け出発しました。これらの隊員のなかには、旭川の第二師団のほか、千歳や恵庭の自衛隊など北海道の部隊に所属しているものがたくさんあります。このような事態に、反対の声を盛り上げてきています。十二月二十日には、札幌真駒

内にある北海道の司令部を「人間の鎖」が取り巻く、中之島公園には、五千人の人たちが集まりました。多くの市町村議会がイラク派兵反対の決議をしました。一月二十八日には、小樽市に住む医師でもある箕輪登元副知事が、札幌地裁に自衛隊派遣中止を求め提訴しました。また、北海道電力・石油原子力発電所は、昨年九月の一号機の一次冷却水漏れ事故がもとで、二号機共々停まり、点検作業に入っていました。一月に多くの問題を残しているにもかかわらず、運転を再開しさらに、間髪を入れず、国は三号機の

工事計画を認可し、建設工事が着工されました。原発認定の却下処分を取り消しを求める原発症集団訴訟のたたかいも、安井晃一さんはじめ四名の原発被災者の方が北海道原告として続けられています。昨年十一月八日には、札幌地裁で第三回口頭弁論が開かれ多くの支援者や被爆者の詰めかけたなかで、国の認定の根拠となつている「原因確率」論の批判の弁論が展開されました。このように、歴史の重大な岐路に立つ日本の状況の一つの典型が北海道にあります。この時期に「つどい」が北海道で開催されることに大きな意

開かれ、医師・医学生十四名、こ来賓二名をはじめ約二十名の参加がありました。冒頭、全国の「つどい」代表世話人である児島徹医師より、「反核医師のつどい」の歴史と課題、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）にもふれて」と題して、記念講演をいただきました。また、「こ来賓」として、北海道被爆者協会の服部十郎氏、原水爆禁止北海道協議会の岩瀬尚氏に臨席いただきました。

日時 二〇〇四年十月十九日(土)～二十日(日)
場所 北海道経済センタービル8階
(札幌市中央区北一条西二丁目 時計台横)
実行委員長 福地 保馬(北水産大学教授)
事務局 塩川 哲男(動医大附属札幌病院)

義を感じています。「つどい」のいままでの開催地を見ますと、東京の仙台を除き、東京以北では行われていない。四高東低の開催地配置であることがわかります。その偏りを、北海道で開催することで少しは均したことになるのでしょうか。

沖繩での第十四回の「つどい」に参加し、いろいろなプログラムに参加するなかで、「つどい」を企画・準備することへの現実感が湧いてきました。一日も早く計画を練り上げたという気持ちで札幌に帰ってきました。

十二月二日に第一回の準備会をもちました。もう一度、月中に準備会を開き、一月三十一日(土)に、第一回実行委員会を立ち上げました。

いままでの準備のなかで、二〇〇四年十月十九日(土)～二十日(日)、次の日が体育の日である休日前の土・日を開催日とすることを決めました。この時期は、北海道の秋が真っ盛り、冷涼な空気とすがすがしい紅葉がみなさまを待っていることでしょう。会場場所は、空港やJRからのアクセスな

今年 九月十七日～十九日 北京で開催
第16回 IPPNW世界大会

九月十七日(土)から十九日(月)までの日程で、中国・北京に開催される。核廃絶への二〇〇〇年合意をさらに発展させ、その次(二〇一〇年)の再検討会議までに具体的な核廃絶への時間的枠組みをつくることと議決されるか、それもNPT体制そのものが決裂崩壊するかの岐路に立たされている。

二〇〇五年NPT再検討会議に向けて、IPPNWは世界平和市長会議への支援協力を全面的に打ち出しており、今回の大会での中心議題になると予想される。

講演者：IPPNW設立時の共同会長のラウンズ氏、チャソフ氏、パナドラ前国連軍縮次長ほか、広島・長崎両市長も交渉中。

主な日程：
二〇〇四年九月十七日(金)～十九日(日)
九月十六日午前・成田 関空発(その他も検討)
九月二十日午後・帰国

費用 三十五万円前後予定

新しい時代のIPPNW 15周年記念行事

ある沖縄で、核兵器の被害の実相に触れて、全国の活動家のお話を聴くことも感動だった。

映画「ヒバクシャ世界の終わりに」の中で米国防務省の元副長官オード元原爆工場周辺の被爆農夫の中の勇気ある人が、補助金やタカを覚えた。

琉球大学理学部の矢ヶ崎克馬教授の指摘にあるとおり、現在、国際放射線防護委員会(ICRP)の基準には、肺や飲み水からの内部被曝についての考察が無い。集団訴訟においては勿論、沖縄の島の放射線場における劣化ウラン弾使用による環境汚染、そしてイラクへ派兵される陸上自衛隊員の健康など、内部被曝を評価できないICRP基準の見直しを求めねばならない。

「原爆症認定集団訴訟」の勝利をめざして医療人の社会的良心を發揮し、全面的に支援しよう」

被爆者の生命をかけた「原爆症認定集団訴訟」運動

「もう我慢することはやめよう、…五十八年前の原爆被害が、生涯にわたって、今日もなお被爆者を苦しめ続けていることを認めさせ、核兵器が再び使われる危険が大きくなっている今、人類史上最大の殺戮であった、広島・長崎を再び世界のどこにでも繰り返させないために」(被爆協アブル二〇〇三)

二〇〇一年秋、日本原水爆被害者団体協議会(日本被爆協)は、「原爆症認定」制度の抜本的な改善を求め、集団訴訟に訴えることも覚悟した原爆症認定申請行動を、全国に呼びかけに行き提議をしました。

これを受けて、昨年、全国三十二都道府県の被爆者約五百人が、申請行動を起こしました。しかし、国がこれらの殆どを却下したために、今年、全国の被爆者は、次々と「集団訴訟」に立ち上がっています。四月十七日の第一陣七人を先頭に、集団訴訟運動が始まり、十月十九日現在、十二都道府県百十人が、九地裁に提訴するに至っています。被爆者は、国を相手取り、認定申請却下の取り消しと、精神的苦痛への損害賠償を求めた「生命をかけたたたかい」に、力をふるいほつて立ち上がっています。しかも、提訴後に亡くなった原告被爆者が、三人を数えており、まさに時間とのたたかにもなっています。

「原爆症認定集団訴訟」の意義と大きな国民的運動の必要性

この訴訟の意義は、原告被爆者のガンなどを、正当に原爆症と認定させ、損害賠償を認めさせること、訴訟勝利を通じて、原爆症認定行政を被爆者の被害に即したものに改めさせること。

訴訟の中で、被爆者が自らの体験を語りつくり、被爆の実相を明らかにし、核兵器は「悪魔の兵器」であり、絶対廃絶すべきものであることを広く訴えることです。

会場の壁のパネルの被爆者が描いた絵。その一枚を凝視している沖繩からの参加者がいた。私も近寄り、みて、ハッと息をのんだ。自分の背中にあふんだ赤ちゃんのお首から上がなくなっているのを知ってか知らずか、狂女の様に歩く母親の姿。

松井和夫共同代表の基調報告にあるIPPNW国際部の活動や、原爆症認定集団訴訟の被爆者の訴え、国の冷酷な切り捨てと東京おろつてネット等の各地の支援者の取り組みなど、沖繩の私たちにとって初耳の最新の情報に接することができただけでなく、核兵器を持ち込まれている可能性の



打ち出している。

唯一の被爆国の医師として
命と平和を守るために闘おう

唯一の被爆国の医師として、命と平和を守るために闘おう。打ち出している。

一方、このイラク戦争を通じて、一千万人といふかつてない規模で国際反戦運動が巻き起こり、国連安保理の決議にも影響を与えた程度であり、国連は今回のイラク戦争をめぐってその機能が試される機会でもあった。憲章にもとづいて戦争を阻止することはできなかつたが、仏、独など戦争へ突入しようとする米、英の単独行動主義に對して異議をとなえ、多国間協調による平和的解決を強く主張した。

またNPT(核不拡散条約)体制からの離脱を宣言した「北朝鮮」は核開発を断念せず、「抑止力」が必要」と主張し、核実験の用意があることを公言している。一方、米国は自ら核兵器廃絶の約束を反故にして垂直拡散を加速し、他国に対しては核拡散の断念を一方的に強要している。

このような激動と緊迫の国際情勢の中で、日本政府はいち早く米英が強行したイラク戦争に支持

集いの沖縄開催によって、沖縄県外から参加、「協力戴いた皆様」に感謝するとともに、改めて識る沖縄の米軍基地の実態、沖縄在住の元米海兵隊員タケラ ス・ラミリス、沖繩の大学の平和教育、そして沖繩で反戦平和運動で闘っている活動家同士との交流など、本土と県内の運動の双方に

私の友人にも長崎大学医学部の学生当時に被爆した小児科医師があり、私の診療所にも広島で被爆した患者が若干名、通院加療中である。以前、福岡の集いで松谷訴訟を学んできた私にとって、も、今、集団訴訟で文字どおり命を賭けて最後のたたかいに立ち上がった被爆者の思いを知ったことは衝撃であった。

琉球大学理学部の矢ヶ崎克馬教授の指摘にあるとおり、現在、国際放射線防護委員会(ICRP)の基準には、肺や飲み水からの内部被曝についての考察が無い。集団訴訟においては勿論、沖縄の島の放射線場における劣化ウラン弾使用による環境汚染、そしてイラクへ派兵される陸上自衛隊員の健康など、内部被曝を評価できないICRP基準の見直しを求めねばならない。

今回の集いの沖縄開催の結果、沖縄の保健医療協会の医師と民医連職員や反戦平和の市民活動家との協力関係により深まり、運動全体の基盤づくりと活性化にもつながった。本場にありがたございました。

「原爆症認定集団訴訟」の勝利をめざして医療人の社会的良心を發揮し、全面的に支援しよう」

被爆者の生命をかけた「原爆症認定集団訴訟」運動

「もう我慢することはやめよう、…五十八年前の原爆被害が、生涯にわたって、今日もなお被爆者を苦しめ続けていることを認めさせ、核兵器が再び使われる危険が大きくなっている今、人類史上最大の殺戮であった、広島・長崎を再び世界のどこにでも繰り返させないために」(被爆協アブル二〇〇三)

二〇〇一年秋、日本原水爆被害者団体協議会(日本被爆協)は、「原爆症認定」制度の抜本的な改善を求め、集団訴訟に訴えることも覚悟した原爆症認定申請行動を、全国に呼びかけに行き提議をしました。

これを受けて、昨年、全国三十二都道府県の被爆者約五百人が、申請行動を起こしました。しかし、国がこれらの殆どを却下したために、今年、全国の被爆者は、次々と「集団訴訟」に立ち上がっています。四月十七日の第一陣七人を先頭に、集団訴訟運動が始まり、十月十九日現在、十二都道府県百十人が、九地裁に提訴するに至っています。被爆者は、国を相手取り、認定申請却下の取り消しと、精神的苦痛への損害賠償を求めた「生命をかけたたたかい」に、力をふるいほつて立ち上がっています。しかも、提訴後に亡くなった原告被爆者が、三人を数えており、まさに時間とのたたかにもなっています。

「原爆症認定集団訴訟」の勝利をめざして、全面的に支援しよう

我々は、医療人の社会的良心が鋭く問われる今回の被爆者のたたかいは、本「集い」の名において、全面的に支持することを表明するものです。また、裁判勝利のために、国民各方面の方々と協力して、大きな支援活動を繰り広げる決意を、明きらかにします。

すでに東京・広島・長崎・兵庫・愛知・千葉などで支援組織が結成され、県民の支援運動が始まっています。その教訓を学びながら、全国各県で支援活動に取り組みしましょう。以下の取り組みを、提案いたします。

被爆者の申請運動集団訴訟を支援するために、被爆者が語りつくす「聞き取り語りつたえ」運動(日本被爆協提案)に協力して、取り組みましょう。

全国規模で、又各県で、共同して討論会講演会平和フォーラムなどを開催し、被爆者の取り組みを励まし、広く世論に訴えましょう。

被爆者の申請運動集団訴訟を支援するために、被爆者が語りつくす「聞き取り語りつたえ」運動(日本被爆協提案)に協力して、取り組みましょう。

全国規模で、又各県で、共同して討論会講演会平和フォーラムなどを開催し、被爆者の取り組みを励まし、広く世論に訴えましょう。

二〇〇三年十一月二日

第十四回核戦争に反対し核廃絶を求める医師医学者の集い(沖繩in)

昨年の第十三回「集い」以降、国内外の情勢には大きな変化があった。国際的には米国は、イラクを標的として大量破壊兵器の所有やコンラド・ライントのつながりを強調した。国連査察団は国連決議にもとづき、大量破壊兵器の査察を開始したが、米英軍は、国連のルールを無視してイラク侵攻を強行した。未だに戦争終結には到らず、イラクでは米英軍の占領統治に反発するテロや暴動が頻発し、民間人や兵士、警察、国連職員などの犠牲者が続出している。米国が主張した大量破壊兵器も発見されず、イラク国民の平和な生活の到来も程遠い状態にある。米国はイラク戦争開戦にあたって核兵器の使用も排除しないと、戦術ウラン弾、クラスター爆弾、パンカーバスターなどの核兵器を行使した。ブッシュ大統領は従来の核抑止戦略を捨て、小型核兵器を通常兵器と有効に組み合せ、相手を先制攻撃に危険な新戦略を打ち出した。ロソアもこれに続き先制攻撃戦略を最近

唯一の被爆国の医師として
命と平和を守るために闘おう

唯一の被爆国の医師として、命と平和を守るために闘おう。打ち出している。

一方、このイラク戦争を通じて、一千万人といふかつてない規模で国際反戦運動が巻き起こり、国連安保理の決議にも影響を与えた程度であり、国連は今回のイラク戦争をめぐってその機能が試される機会でもあった。憲章にもとづいて戦争を阻止することはできなかつたが、仏、独など戦争へ突入しようとする米、英の単独行動主義に對して異議をとなえ、多国間協調による平和的解決を強く主張した。

またNPT(核不拡散条約)体制からの離脱を宣言した「北朝鮮」は核開発を断念せず、「抑止力」が必要」と主張し、核実験の用意があることを公言している。一方、米国は自ら核兵器廃絶の約束を反故にして垂直拡散を加速し、他国に対しては核拡散の断念を一方的に強要している。

このような激動と緊迫の国際情勢の中で、日本政府はいち早く米英が強行したイラク戦争に支持

琉球大学理学部の矢ヶ崎克馬教授の指摘にあるとおり、現在、国際放射線防護委員会(ICRP)の基準には、肺や飲み水からの内部被曝についての考察が無い。集団訴訟においては勿論、沖縄の島の放射線場における劣化ウラン弾使用による環境汚染、そしてイラクへ派兵される陸上自衛隊員の健康など、内部被曝を評価できないICRP基準の見直しを求めねばならない。

今回の集いの沖縄開催の結果、沖縄の保健医療協会の医師と民医連職員や反戦平和の市民活動家との協力関係により深まり、運動全体の基盤づくりと活性化にもつながった。本場にありがたございました。

「原爆症認定集団訴訟」の勝利をめざして、全面的に支援しよう

我々は、医療人の社会的良心が鋭く問われる今回の被爆者のたたかいは、本「集い」の名において、全面的に支持することを表明するものです。また、裁判勝利のために、国民各方面の方々と協力して、大きな支援活動を繰り広げる決意を、明きらかにします。

すでに東京・広島・長崎・兵庫・愛知・千葉などで支援組織が結成され、県民の支援運動が始まっています。その教訓を学びながら、全国各県で支援活動に取り組みしましょう。以下の取り組みを、提案いたします。

被爆者の申請運動集団訴訟を支援するために、被爆者が語りつくす「聞き取り語りつたえ」運動(日本被爆協提案)に協力して、取り組みましょう。

全国規模で、又各県で、共同して討論会講演会平和フォーラムなどを開催し、被爆者の取り組みを励まし、広く世論に訴えましょう。

二〇〇三年十一月二日

第十四回核戦争に反対し核廃絶を求める医師医学者の集い(沖繩in)